

教育センターだより

第424号

令和元年9月11日発行
 福岡市教育センター
 (授業力向上支援センター)
 TEL 822-2875
 発行者 梶原由紀子
 編集者 中村 智和

変わらないもの

所長 梶原 由紀子

九州北部の大雨で多大なる被害を受けられた皆様に、心からお見舞い申し上げます。特に被害の大きかった佐賀県で、すでに地域のマンパワーによって復興されつつあるという報道を見るにつけ、年号は変わっても変わらない、人のやさしさとたくましさを実感します。

さて、本市では、6月に「第2次福岡市教育振興基本計画」を策定し、教育の目標となるめざす子ども像を「やさしさとたくましさをもち ともに学び未来を創り出す子ども」としました。本年度は、これまでの10年間の成果と課題を振り返り、新たな時代に対応した取組を進めていく時期と言えます。

今、改めて初心に立ち戻り、教育基本法第一条(教育の目的)を見てみますと、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」とあります。ここで言う「人格の完成」とは、「個人の価値と尊厳との認識に基づき、人間の備えるあらゆる能力を、できる限り、しかも調和的に発展せしめること。」と、昭和22年の文部省訓令に記されています。教育基本法改正後も変わらないこの文言をみると、教育に込められた崇高な理念を実感するとともに、未来を切り拓く子どもたちへの真摯な願いが伝わってきます。

少し古い本になりますが、志水宏吉「公立学校の底力」(ちくま新書2010)では、「力のある学校をスクールバスモデル(教職員集団のエンジンと学校運営のハンドルさばきなど)になぞらえています。そして、その注釈として、以下の3点の重要性について触れています。一つ目は、同僚教員の心に火を付けるキーパーソンの存在。二つ目に、地域の力(校区や子どもたちの状況との関連を踏まえた柔軟な学校経営)。三つ目に、教師たちの活力とやる気。さらに、教育の条件整備を担う行政の手厚い支援が必要不可欠だと述べています。これらはすべて、これまでもこれからも変わらない重要な要素でしょう。

超スマート社会(Society5.0)の実現に向けての動きや働き方改革の推進など、待ったなしの日々ではありますが、ときに、教育の「変わらないもの」を見つめ直してはどうでしょうか。まずは先生方が誇りをもち、温かい言葉と笑顔で子どもたちと学び合う、そんな元氣ある学校づくりのために、これからも力を合わせていきたいと思ひます。

全市人権教育研修会 担当 江口

7月31日(水)、8月21日(水)に七つの市民センターホールにて、全市人権教育研修を実施しました。本市の6,720人の先生方が「人権教育の推進」「差別の現実に学ぶ」研修を通して、人権教育における知的理解を深め、人権感覚を高めました。

＜受講者の感想から＞

- 人権の広がりや歴史、法的根拠など改めて人権とは何かを考える機会となりました。人権に関する事象報告を聞いて子どもたちの差別性の認識がない点が気になりました。改めて、日常の学校での指導において、互いを認め合う支持的風土づくりの大切さを感じました。
- ネットによる差別事象に危機感を感じました。ほとんどの生徒がスマホを持っている時代、デマや偏見の情報が簡単にアクセスできてしまうので、学校でしっかり人権教育をすべきだと感じました。
- 毎年行われる研修で知的理解が深まり、人権感覚も高まってきたと思ひます。そのことが現場での指導力の向上につながっているため、今後も毎年新しい発見がある全市人権で学び続けたいと思ひます。



「自覚する」「行動する」「連携する」

教育センター講演会 担当 大田

8月19日(月)に、福岡教育大学の生田淳一教授による教育センター講演会が行われました。100名を超える先生方の参加で、大変有意義な時間となりました。感想を紹介します。

本日は講演を聞き、2学期からの学級経営への意欲が高まりました。自分がこれまでに見取ってきた子どもの実態をベースに学級経営を振り返ることが大切だと感じました。本日の講演で学んだことをぜひこれからにつなげていきたいと思ひます。

QUの見方や活用の仕方、エンカウンターやトレーニングについて、2学期の学校現場で活用できそうなポイントを知ることができました。どの子どもにも「学校が、学級が楽しい」と思ってもらえるために、この夏休み中にしなければならないことが、改めて分かりました。

初任で、児童との向き合い方がなかなか分からず、QUアンケートともちょうど向き合っているところでした。児童への関わり方を少しでも変えていく必要があると思ひ、2学期から切り替えて行っていこうと思ひます。

担任をしなくなり数年経ちますが、もう一度担任になり、学級経営してみたいと思ひました。

自分が教員であるということに、希望がもてました。



チェック!

社会の取り組みが
ひと・まち・未来を変える。

最新の調査で性の多様性の理解度が最も高いと判明した福岡県と沖縄県。先進的な2市の取り組みから、誰もが住みやすいまちづくりのヒントを探ります。

TQ+) — × — FUKUOKA city 福岡市

福岡県田川郡福智町の広報誌「広報ふくち」に、本市の性的マイノリティに関する取組や研修についての特集が組まれましたので、紹介します。

福岡市では、子どもたちの人権感覚を高めるため、市教育委員会が独自で人権読本「ぬくもり」を発行しています。世の中では、多様な性への無理解からいじめや不登校、自殺に至る事件も起きているため「ぬくもり」の改訂時に性の多様性の内容を盛り込み、市内の小・中学校でこの読本を活用した

教育の重みを胸に、伝える「性の多様性」



子どもの人生の基盤となる義務教育その間に得る知識・体験は一生もの。責任をもって伝えたいと思ひます。

1 市人権読本「ぬくもり」内の多様な性の掲載内容は、当事者の意見を取り入れて平成27年に作成。生徒たちはこの本を基に授業で性の多様性を学ぶ。



- FUKUOKA city point!!
- 1 人権読本「ぬくもり」で多様な性を掲載
 - 2 小中学校での性の多様性に関する授業
 - 3 教職員向けの性の多様性の研修
 - 4 市立中学校の標準服の導入(予定)
 - 5 性的マイノリティに関する支援方針の策定
 - 6 福岡市パートナーシップ宣言制度
 - 7 弁護士によるLGBT相談

授業を行っています。また、私たちは「義務教育期の経験は、子どもたちの人生の基盤」と捉え、多様な性も決して中途半端な知識・気持ちで向き合っていけないと考えています。その重みを感じてもらうため、市の全教員に当事者の講話を取り入れた研修を行っている最中です。これらの取り組みが本格的に始まって、まだ4年ほど。これからも性の多様性や時代とともに生じる課題に真摯に向き合い、全ての子どもが学校に行きやすい環境づくりに努めていきます。



福岡市教育委員会 教育センター・研修・研究課 江口 大助 主任指導主事

